

§ 第 6 回世界で活躍する日本の土木技術者シリーズシンポジウム § 【シンズリ道路建設プロジェクトシンポジウム開催報告】

2016年1月21日土木会館講堂において、第6回世界で活躍する日本の土木技術者シリーズシンポジウム「ネパール シンズリ道路建設プロジェクト」が開催された。

シンポジウムは山川朝生国際センター長代行の開会挨拶に始まり、前後半に分けて7名の講演者から報告をいただいた。

初めに JICA 資金協力業務部長の佐々木隆宏氏より、本件プロジェクトが無償資金協力として最大級の道路建設プロジェクトであり、その意義や事業効果について講演がなされた。続いて、ネパール国道路局副局長 Sanjaya Kumar Shrestha 氏のビデオメッセージが紹介され、日本の建設企業とコンサルタント会社の技術力、JICA の経済的支援のおかげでシンズリ道路が完成したこと、プロジェクトがもたらすネパールの経済発展への貢献について感謝の言葉が述べられた。

実際にプロジェクトに携わられた方からの講演として、まず日本工営(株)の新開弘毅氏よりプロジェクトの調査から設計、施工、維持管理について概要説明がなされた。橋梁の代わりにコーズウェイを採用したことや、山越え区間でトンネル案を採用しなかったことがコストの削減や安全面の確保につながったこと、また、維持管理プロジェクトとして安全対策や道路防災技術移転が実施されたことが紹介された。

続いて、日本工営(株)の藤澤博氏と片桐英夫氏から山岳道路の設計および施工監理について概要が説明された。藤澤氏からは総延長 160km（うち新設道路 120km）の道路建設にあたりハザードマップを活用し、斜面の勾配に合わせてギャビオン擁壁などの道路構造物の選定や標準化を行ったことが説明された。また、余裕を持った排水や流末処理をすることで地滑り対策等に寄与する安定構造物をを実現してきたことも紹介された。片桐氏は、厳しい自然環境の中で難工事をやりとげられたのは、現地の状況を十分に配慮した道路設計を行ったこと、緻密な施工計画と日常管理を実践してきたこと、日本人とネパール人との相互理解と信頼によるところであると熱心に語られた。

建設工事については、(株)安藤・間の猪狩哲夫氏からネパールの国情や建設事情を踏まえて説明があった。セメントや骨材、重機にいたるまで隣国のインドやタイから持ち込まなければならなかったこと、工事経験の無い農民を労働者として雇用する難しさが紹介された。

若手技術者のネパールでの体験談として、日本工営(株)の鳥生昌宏氏から現地での貴重な経験を通して、技術者として大きく成長できたことが語られた。最後に(株)コーエイ総合研究所の松村みか氏からプロジェクトの社会的効果として、住居のライフスタイルが変化したこと、農業の近代化がなされ新たなビジネスチャンスが生まれたことなど、ソフト面の効果について話題提供がなされた。

今回のシンポジウムは多面的な話題提供がなされ、参加者も 100 名を超えるなど盛会であった。次年度も 2、3 回のシンポジウムを計画しているが、さらに若手技術者や学生の参加を期待したい。

【記：国際センター】



シンポジウムの様子



講演中の新開弘毅氏